〈日本組織適合性学会誌 *MHC* の投稿規定〉

1. 投稿規定

1.1. 原稿様式

提出原稿がそのまま電算写植で印刷できるように，原稿は全て，コンピューターのフロッピーディスクとA4サイズでプリントアウトしたものの両者を提出する．一般的なワープロソフトを使用し，ソフト名を明記する．字体，サイズ，行の字数，行間，などの体裁は自由とする．また，図表については，写植でそのまま掲載できるものを提出するが，挿入箇所を本文に指定する．図については天地を明示する．印刷の際に，縮小または拡大する場合があるので，考慮すること．また，図表の題や説明はワープロで，本文とは別頁に添付する．

1.2. 原著論文

会員からの投稿を原則とするが，編集委員会が依頼することもありうる．日本語，英語を問わない．最初の一頁はタイトルページとし，タイトル，著者名，所属，脚注として代表者とその連絡先を記す。タイトル，著者名，所属は次の様式にしたがう．

Serological and nucleotide sequencing analysis of a novel DR52-associated DRB1 allele with the DR'NJ25' specificity designated DRB1*1307.

Toshihiko Kaneshige[1], Mitsuo Hashimoto[2], Yayoi Murayama[1], Tomoko Kinoshita[2], Tsutomu Hirasawa[1], Kiyohisa Uchida[1], Hidetoshi Inoko[3]

1) Shionogi Biochemical Laboratories, Shionogi Company, Osaka, Japan
2) Kidney Transplantation Center, Hyogo Prefectual Nishinomiya Hospital, Hyogo, Japan
3) Department of Molecular Life Science, Tokai University School of Medicine, Kanagawa, Japan

HLA class II の DNA typing と MLC

能勢　義介[1]，稲葉　洋行[1]，荒木　延夫[1]，浜中　泰光[1]，阪田　宣彦[1]，土田　文子[2]，辻　公美[2]，成瀬妙子[3]，猪子　英俊[3]

1) 兵庫県赤十字血液センター，検査課
2) 東海大学医学部，移植免疫学
3) 東海大学医学部，分子生命科学

内容は，二頁目よりはじめ，要約（Summary），はじめに（Introducution），材料と方法（Materials and Methods），結果（Results），考察（Discussion），参考文献（References）の順に記載する．また，要約の末尾に日本語で5語以内のキーワードを加える（英文の場合には英語のKey wordsを加える）．脚注は適宜，設けてもよい．日本語で投稿の場合には，末尾に英語のタイトル，著者名，所属(様式は上述に従う)，英語の要約と英語で5語以内のKey wordsをつける．枚数に特に指定はないが，速報的な短報(全体で，2,000 ～ 3,000 字，出来上がり A4 版で2～4枚程度）を中心とする．もちろん，フルペーパー（full paper）も歓迎する．なお，参考文献（References）の記載については，下記1.5を参照すること．オリジナル1部にコピー3部を添えて，編集長宛(下記3参照)に送付する．

1.3. 総説，シリーズその他

編集委員会からの依頼を原則とするが，会員からの投稿も大いに歓迎する．日本語を原則とする．タイトル，著者名，所属は上記1.2.の通りにしたがい，要約と要約の末尾に日本語で5語以内のキーワードを添える．その他の体裁は自由とするが，構成がいくつかの章，節などから成る場合には，次の番号に従い，適当な見出しを添える．

1.　2.　3.　4. .....
　1.1.　1.2.　1.3.　1.4. .....
　　1.1.1.　1.1.2.　1.1.3. .....

脚注は適宜，設けてもよい．なお，参考文献（Refer-

ences）の記載については，下記1.5.を参照すること．

1.4. 校正

校正は編集委員が行い，特別な場合を除き，執筆者は校正を行わない．

1.5. 参考文献

参考文献は，本文中に数字で，例えば (3)，の様に表示し，末尾にまとめて，次のようなスタイルで記載する．ただし，著者名，または編集者名は，筆頭3名まで記載し，以下は省略する．

1. Kaneshige T, Hashimoto M, Murayama A, *et al.* : Serological and nucleotide sequencing analysis of a novel DR52 - associated DRB1 allele with the DR'NJ25' specificity designated DRB1*1307. *Hum. Immunol.* **41** : 151-160, 1994.
2. Inoko H, Ota M : *Handbook for HLA Tissue - Typing Laboratories* (eds. Bidwell J, Hui KM), PCR - RFLP. CRC Press, Boca Raton, 1993 ; p. 1-70.
3. 能勢義介，稲葉洋行，荒木延夫ら：HLA class II の DNA Typing と MLC，輸血，**39**：1031-1034, 1993.
4. 猪子英俊，木村彰方：岩波講座分子生物科学11巻，生物体のまもりかた（本庶佑編），自己と他の識別，岩波書店，東京，1991; p. 129-194.

2. 別刷

原著論文については，別刷は有料とする．その費用は部数，頁数による．

3. 原稿送付先

〒259-11 神奈川県伊勢原市望星台
東海大学医学部 分子生命科学系遺伝情報部門 日本組織適合性学会誌 MHC
編集長 猪子 英俊
TEL: 0463-93-1121 内線2312
FAX: 0463-94-8884

編集後記

本誌の編集に携わって早くも2年が経過しました。このような編集作業に不慣れな我々編集委員一同が、試行錯誤を繰り返してようやく発行期日にこぎつける毎号でしたが、この9月に行われました理事会、評議委員会、総会の議を経て、再び編集理事を命じられました。身のひきしまる思いです。つきましては、これまでの本誌の編集方針、内容、体裁などどのようなことでも、ご意見、御批判、アイデアなどありましたら、編集スタッフに是非お寄せ下さい。なお、現在の編集スタッフは、年3回の編集会議の都合上、編集委員長の近辺在住の次の方に御願いしています。

編集委員長：
猪子　英俊（東海大学）
編 集 委 員：
大谷　文雄（北里大学）
木村　彰方（東京医科歯科大）
小林　　賢（防衛医大）
徳永　勝士（東京大学）
中島　文明（神奈川県赤十字血液センター）
成瀬　妙子（東海大学）

また、編集方針、編集協力者については、本誌Vol.1, No.2, 28-30ページをご参照下さい。（猪子　英俊）

第5回日本組織適合性学会大会も盛況の内に無事終了しました。次回は平成9年4月25,26日に砂防会館（東京都千代田区）で開催されます。この号が出版される頃には次回の大会に関するご案内がお手元に届いていると思いますが、演題の申し込みよろしくお願い致します。どしどし応募してください。特に若い諸君からの申し込みをお待ちしております。また、発表した演題は是非MHCに投稿していただきたいと思います。

あと数週間で今年も終わりです。読者のみなさんはどんな年でしたでしょうか。私はなんか忙しい一年で、あっと言う間に一年が過ぎてしまいました。いったい今年は何か成果のある仕事をしたのだろうか。何もしないうちに一年が終わってしまう気がします。それは年のせいでしょうか。来年がどんな年になるか楽しみです。来年もMHCをよろしくご支援くださいますようお願い致します。読者の皆様も1997年がよい年になりますよう心からお祈り申し上げます。（小林　賢）

MHC

Major Histomcompatibillity Complex

Official Journal of The Japanese Society for Histocompatibility and Immunogenetics

1996年12月20日発行　3巻2号，1996

定価　2,000円

発行　日本組織適合性学会（会長　片桐　一）

編集　日本組織適合性学会編集委員会（編集担当理事　猪子英俊）

平成8年7月24日　学術刊行物認可

日本組織適合性学会事務局（事務担当理事　十字猛夫）

〒150　東京都渋谷区広尾4-1-31　日赤血液センター内

印刷・港北出版印刷㈱

〒150　東京都渋谷区渋谷2-7-7